

---

## 平成 31 年度 交通に関する萩・椿東地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 19 日（金） 10：00～11：30

場 所：萩市無田ヶ原福祉複合施設おとずれ

事務局：萩市商工振興課、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 6 名



### 1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

### 2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本課長：（省略）

### 3. 議事

(1) 資料 1 「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」

資料 2、3 「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」

事務局：資料 1、2、3 を説明（省略）

意見交換：

参加者：旧萩市内のバスは十分に回っている。ただし、まあ一バスでアトラス萩店に通勤する人が、時間的に問題があると聞いている。もう 5 分早く着くと、8 時勤務に間に合うとのこと。また 3～4 分ぐらい常に遅れている。雨になると特に遅れる。高齢者や通勤で使う人も多く、8 時に中心部に到着できるような運行形態がよい。一方で経費の問題もあると思うので、平日や休日等で、どのような日に空車が多いか、統計上明らかにした上で、効率化を図ってはどうか。

事務局：時間の遅れは、乗車している人数にもよる。今後は 30 分ごとの運行にこだわらず、利用者の実態に応じて運行することも検討する。

参加者：今の 30 分体制は良い。乗る人の意見を踏まえて変更できれば良い。ただし、個人での問題もあり、またバス停の近い・遠いの問題もある。

事務局：よく利用する人、利用していない人の意見も踏まえて、まあ一バスの利便性を検討する。土日、平日の利用状況も考慮しながら検討する。

参加者：日頃から使っている人は慣れもあるため、あまり乗らない人の方が、不満が多い可能性もある。利用者の多い人の意見を反映させる方が良いのではないか。現状のまあ一バスの運行形態は、今のところ問題ない。

---

参加者：停留所に屋根は必要ないと思う。ベンチは欲しいとは思っているが、一箇所、バス停に屋根をつけると、全部つける必要がある。

参加者：まあ一バスは、市民病院への通院時に利用しているが、生活利用と、観光利用の比率はどうなっているのか。

事務局：生活利用が 8 割、観光利用が 2 割である。

参加者：現状は、生活利用が多い。生活利用の視点で変更してはどうか。

参加者：新しい道ができると、ルートが変わることがある。どう考えても、旧道の方が、団地があり、人口も多く、多くの人を乗降させやすい場合もある。市民生活で使いやすい路線としてほしい。

参加者：路線バスは、一日 4 人しか乗車していない路線もある。補助金が多く発生している路線は、いっそ廃線としても良いのではないか。

事務局：基本的に運行は、どの路線も厳しくなると考えられる。4 人で少ないからやめるとなると、例えば川上地区の方の移動手段も無くなってしまう。そのあたりも考えながら検討する。利用者数が少なくても維持するかどうか、よく考える必要がある。

参加者：計画を作るにあたって、廃止後に、ぐるっとバスに切り替えて、運行便数を増やすなどの案はどうか。須佐・田万川方面の路線など、無理して維持せず、撤退していただいて、新たな交通体系を検討してはどうか。

事務局：防長交通などの交通事業者にとっても、運転手の確保が難しくなっている課題もある。利用者数の少ない路線について、廃止したのち、ぐるっとバスでの運行や、あるいは自家用有償旅客運送への切り替えを図るなど、事業者との話し合いも進めながら、ある程度の方針を定める予定である。

事務局：まあ一バスの当初目的は、日常生活のための路線を第一としつつ、一方で観光客の足の確保を考慮し、運行ルートを作成した。現状は、1 周 1 時間の 30 分に 1 本、片方向での運行がわかりやすいという当初運行時の意見で運行してきている状況。これら、当初の制約も外した上で、今後検討したいと思う。場合によっては両方向等も含めて検討したいと考えている。

参加者：福栄のぐるっとバスは評判が良い。一方で、旧萩市内においては防長交通に気兼ねをしているのではないか。

事務局：まあ一バスは市の運行なので、こちらで検討することができる。

参加者：まあ一バスは、至誠館大学及び永山団地への延伸も含めて検討いただきたい。また、椿方面であれば、萩往還まで延伸することなどもできないか。

参加者：小型のハイエースを活用し、市内をまんべんなく回せる仕組みを検討していただきたい。

参加者：先ほどの新しい道路へのルート変更は、道路沿いにショッピングセンターができたため、旧道から変更している経緯もある。まあ一バスは、1 時間の縛りがなくなれば、かなりいろいろな発想もできるが、バスの台数に制約があるので、しっかりと検討が必要と思われる。

参加者：ぐるっとバスも有償運行に変えると、変化があるのではないか。

参加者：ぐるっとバスの運行が維持されているのであれば、高齢者にとって住みよい街ができるのでは。

事務局：バスの小型化や、バスの台数増加は、現状の財政状況では難しい。まずは 30 分の制約を外した上で、逆ルートの検討なども含め、1 から検討していくことが重要であると思う。現状の運行の不満の解消に向けて検討する。大学への延伸も含めて検討したい。

参加者：まあ一バスと、渡船場、JR との乗り継ぎについて検討いただきたい。かつては、1~2 分の調整でアクセス出来ていたこともある。

事務局：相島の航路の見直しと合わせて検討したい。

---

---

参加者：見島の船が早く出向するので、誤差が生じている。大島の乗り継ぎは特にぎりぎりになっている。

参加者：高齢者の乗降に時間がかかることも配慮し、検討いただきたい。総合的に考えて検討したい。

事務局：バスの便数を検討するにあたり、乗り継ぎ拠点となるところや、バスを待つ環境の整備も含めて検討したい。

参加者：まあ一バスは、観光として利用するか、市民の移動手段として利用するか、要検討が必要である。

参加者：萩市内にはスクールバスは走っているか。

事務局：旧町村部はある。旧萩市内はない。(山田地区はスクールタクシーが運行)

参加者：旧町村部のスクールバスは、一般の利用者は乗車できるのか。

事務局：乗れる地域もある。今後、スクールバスの混乗も含めて検討する。

参加者：スクールバスに地域の人が乗るのは、長野県などの事例もある。混乗の予定はあるのか。

事務局：旭地域の方で実施している。今後、他の地域でも検討する予定である。

参加者：人口減少が進み、生活利用が減っていく中で、まあ一バスの経営は、観光に特化した収益体制とした方がよいのでは。

事務局：観光地だけを回る等、外資を稼ぐことも重要な視点である。観光ルートを回すことも留意しつつ、また人口が減少した際にどうするか、そのあたりも含めて検討したい。

参加者：まあ一バスが満車になったときは、どのようなときか。

事務局：平成27年の観光シーズンは、多く乗車したなどの例もある。

参加者：車両を小さくすると、高齢者が乗りにくい問題もある。メリット・デメリットでどう考えるか。現状はどのような大きさの車両なのか。

事務局：車両は、立ち乗車も含めると35人乗車可能である。

参加者：まあ一バスと周辺部から来た路線バスの連結もしっかり考えて検討していただきたい。観音寺市では、バスが市内各駅で連結しているような事例もある。

事務局：参考とする。

#### 4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上